

M → to pia



6月は「心のきずなを深める月間」

ゆづきをだして「ほちがづきどうしたの？」



いじめを許さない 学校・学級を目指して

学校での取組例	家庭教育での取組例	地域での取組例
<ul style="list-style-type: none"> ○児童会・生徒会主催の交流を回る集会活動の実施 ○奉仕活動・勤労体験活動等の体験活動や教育相談の実施 ○遊技や特別活動の充実 ○部活動のキャプテン会議や顧問会議の実施 ○保護者や地域住民に公開する活動等の充実 ○いじめに関する校内研修の充実等 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族の抱れ合いの中で、子供の心の状況を把握 ○親子で感動を共有できる活動(自然体験、スポーツ、読書等) ○子供の自尊感情を高める日常の言葉かけ ○「くまもと家庭教育10か条」の活用 ○家族そろっての地域活動への参加 ○「くまもと携帯電話・スマートフォンの利用5か条」の活用推進等 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供が地域住民と交流する場づくり ○一日一汗運動、福祉ボランティア活動等の実施 ○地域行事等における子供が参加体験できる場づくり ○異年齢の子供たちが一緒に遊ぶ場づくり ○総合型地域スポーツクラブへの参加等

熊本県教育委員会

『いじめ防止対策推進法』の第4条には、「児童等は、いじめを行ってはならない」と明文化されています。熊本県教育委員会は、6月を「心のきずなを深める月間」に制定し、いじめを許さない学校・学級づくりを目指しています。本校でも、子供たち自身が問題意識をもてるように、以下の取組を行いました。(一部は今後実施予定)

- ①全校集会における校長講話
- ②いじめのない仲のよい学級・学校にするための学級会及び代表委員会
- ③友達のいいところを記入した「いいね」カードの作成
- ④学級人権宣言の決定
- ⑤道徳及び学級活動における人権教育
- ⑥心のきずなを深めるポスターや標語の作成
- ⑦いじめやいやなことをされていないかアンケート実施
- ⑧⑦のアンケート結果を受けて教育相談

県教委は、各家庭での取組も呼びかけています。その中に、「くまもと家庭教育10か条」の活用が示されています。

くまもと家庭教育10か条

<p>第1条 家族の信頼感</p> <p>伝えよう 愛しているよのメッセージ</p> <p>わたしは、家族にとって本当にかけがえのない存在なのですね。</p>	<p>第6条 命の大切さ</p> <p>自分の命 みんなの命 どれもが世界で1つだけ</p> <p>わたしは、生まれてきてよかったです。みんなの命を大切にします。</p>
<p>第2条 あいさつの習慣化</p> <p>朝昼晩 元気にあいさつ 習慣に</p> <p>わたしは、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」のあいさつをする、いきいき過ごせます。</p>	<p>第7条 食事・団らん</p> <p>家族仲良く 食事・団らん 心と体に栄養を</p> <p>わたしは、家族仲良く食事をしたり話をしたりする時間がとっても好きです。</p>
<p>第3条 善悪の区別</p> <p>教えよう 事の善し悪し 躰から</p> <p>わたしは、していいこと・してはいけないことをきちんと教わりたいのです。</p>	<p>第8条 体験の意義</p> <p>体験で 得られる本物 知と心</p> <p>わたしは、体験を通して気づいたのです。わかったのです。変わったのです。</p>
<p>第4条 感謝の心</p> <p>「ありがとう」は 生きゆく心の 出発点</p> <p>わたしは、みんなに感謝して生きています。</p>	<p>第9条 地域全体での子育て</p> <p>この子もあの子も 地域で子育て みんなの宝</p> <p>わたしのことを、近所のおじさん、おばさん、おにいさん、おねえさん、みんなが見守ってくれているんですね。</p>
<p>第5条 我慢する力</p> <p>肥後っ子の あすを支える がまん力</p> <p>わたしにとって、一つ一つの小さな我慢の積み重ねが生きていく糧になっています。</p>	<p>第10条 わが家の1か条</p> <p>あなたのご家庭で付けてください。</p>

ご家庭の見やすいところに貼ってご活用ください。

家庭教育や子育ての悩みを電話で相談できます。
熊本県教育委員会 「すこやか子育て電話相談」 ☎096-354-8822
*月～金曜日 午後5時～午後9時 *土曜日 午後1時～午後5時 (休日・年末年始と8月15日～16日を除く)

令和2年度、県下一斉に実施された「心のアンケート」では、いじめを受けていた小学生の約3割は、誰にもいじめられていないことを話していないという結果が出ています。この数値は、毎年ほとんど変わりません。その主な理由は、①自分で解決できると思った ②いじめられていることを知られなくなかった ③家族などに心配をかけると思った などがあげられていました。子供たちの様子で、何か気になることがありましたら、すぐに学校にお知らせください。本校職員も危機感を持って、児童一人一人としっかり対話を行い、児童理解を進めていきます。子供たちが、SOSを発信しやすい理想的な環境を作っていくために、家庭と学校が強い絆で連携していければと願っています。